

高標高における松くい虫対策 -富士山のアカマツ美林を守る-

【特徴】

富士山等高標高域のアカマツを松くい虫から守るため、松くい虫の媒介昆虫であるマツノマダラカミキリの生息域が、富士山のどの高さまでになるのかを明らかにし、各標高別の被害対策を作成した。

【活用が見込まれる分野】

富士山等高標高域における松くい虫対策

【成果】

- 松くい虫の集団被害が1150m以上では発生しないことを明らかにした。
- 各標高(気温)におけるマツノマダラカミキリの生息可能性を明らかにした。
- 各標高における松くい虫の防除対策を作成した。

【技術内容】

富士山

標高 1150 m 以上

マツノマダラカミキリは世代を越えて生息できない。カミキリの飛来があっても、松くい虫被害は1年限り。(駆除処理が望まれる。)

1150m 年平均気温8.2℃



標高 950 m ~ 1150 m

マツノマダラカミキリは世代を超えて生息可、しかし個体数は減少。松くい虫被害はカミキリムシの飛来で発生し、数年続く。

950m 年平均気温9.1℃

駆除処理が必要。



標高 950 m 以下

マツノマダラカミキリは増加。松くい虫被害は激化する。予防、駆除、樹種転換等の対策が必要。